

四国中央市 歴史探訪

遺跡の発掘調査と 古代のものづくり

地下に眠る遺跡は、いわゆる「もの言わぬ資料」であり、発掘調査によってはじめてその姿を現します。

今回は、平成23年5月から8月にかけて実施した、下分坪ノ内遺跡の第二次調査の概要について紹介します。

遺跡の発掘調査

発掘調査には、国史跡宇摩向山古墳のように遺跡を保存するために行う「学術発掘調査」と、今回の下分坪ノ内遺跡第二次調査地のように、工事のために壊れてしまう遺跡を記録として保存するための「緊急発掘調査」があります。

下分坪ノ内遺跡第二次調査地では、「古代」と呼ばれる時代、中でも7世紀から8世紀ごろと考えられる竪穴住居址や土坑群、掘立柱建物など、多くの遺構が密集して見つかりました。詳細な遺跡の分析はこれからですが、竪穴住居のひとつに興味が深い遺構が見つかりました。



▲ 住居址の発掘調査

「ベルト」と呼ばれる畔状の部分を残すことで遺構の中の土の堆積を確認します。



▲ 住居址「ベルト」除去後

「ベルト」を除去すると、中央に作業を行った痕跡のある石が見つかりました。



▲ 炉跡の断面

「ベルト」の断面から、焼土や炭の堆積が確認できます。



▲ 住居址中央の作業石

石の中央は円形に窪んでおり、この石の上で、何か作業をしたことがわかります。写真左奥は炉跡。

古代のものづくり

この竪穴住居からは、住居の隅に掘り窪めてつくられた、火を使った痕跡「炉跡」が見つかりました。炉は約50〜60センチ程度の平面隅丸形状に、深さ約10センチ程度掘り下げてつくられていました。

また、この住居の中央には、平らな石材が設置されていました。石の中央が円形に窪んでいることから、この石を台として用いるような作業場だったのかもしれない。

一般の住居か、それとも、特別な遺構なのか、この周辺の土に微細な破片などの痕跡が含まれていないか、今後分析を進める予定ですが、これらの遺構が関連性をもつて使われていたとするならば、古代の何らかの工房の可能性も考えられます。

「遺跡」「遺構」「遺物」を丁寧に観察すると、「もの言わぬ考古資料」がそとと語り始めます。



—下分坪ノ内遺跡第三次調査地発掘調査速報—

▲ 下分坪ノ内遺跡第二次調査地全景

7世紀頃から8世紀頃を中心とした竪穴住居址と土坑群、掘立柱建物跡などが密集して見つかりました。

現地見学会のお知らせ

- 📅 11月30日(土) 13:30 ~ 15:00
- 📍 下分坪ノ内遺跡第二次調査地 (金生町下分 1349-1)
- 📞 文化図書課 28-6043

※ 発掘調査はすでに終了しております。調査中の現地説明会とは異なり、十分に遺跡が観察できない可能性があります。ご了承ください。



歴史にふれよう ホンモノに出会おう